

西高校生レポート

西高農場は、地域とともに先端技術の研究・研修、憩い、自然とのふれあいの「場」として開放しています。

地域農業についての意見交換に参加



生物資源系列、総合進学系列の1・2年生の9名が、2月2日にJAあきた白神で行われた「農業を語るディスカッション」に参加しました。

当日は、JAから佐藤組合長ら3名、能代市から竹嶋高明農業振興課長、農業技術センターの佐々木直実副所長の2名が出席。はじめに佐藤組合長が、「米以外の園芸作物にも取り組む複合経営や冬場の農業収入の確保が必要。若い人が農業に従事できる環境を作るためのアイデアを聞かせてほしい。」と挨拶しました。

続いて、能代西高校生徒が「7月早取りねぎの商品開発の提案」についてプレゼンテーションを行い、能代西高校が取り組んでいる様々な活動について紹介しました。

その後、「地域と地域農業を考える」をテーマに生徒から出された質問に対して、JAや能代市が答えていくディスカッションが行われました。



意見交換会

(生徒)今後のメガ団地の構想を教えてください。

営農企画課 課長 佐藤 和芳



面積拡大による販売高の向上や農地の集約化による効率的な農業の実現と雇用。さらに、「白神ねぎ」のブランド化による知名度向上を目指しています。

(生徒)共同購入、共同販売がJAの理念と聞きましたが、同じ秋田県内でも肥料や農薬の値段が異なるのはなぜですか。

営農企画課 係長 細川 剛



大量購入により、業者との価格交渉を行うと値段が決まっています。地域によって値段が違うのは、その土地に合った肥料・農薬があることと、購入量の差によるものです。

(生徒)営農指導において今後の重点目標は何ですか。

営農企画課 係長 細川 剛



大規模農家や小規模農家、また、新規就農の方、それぞれの形態に合わせた指導を行い、農業所得の向上や地域農業を守っていく指導を徹底したいと思っています。

(生徒)今後、管内で進めたいと思っている野菜はありますか。

能代市農業技術センター 副所長 佐々木 直実



本来であれば特産品のねぎを進めたいが、初期投資の問題や栽培の難しい点があります。そのため、既存の施設を利用してできるキャベツなどを進めたいと思っています。

(生徒)第6次産業化のための商品アイデアについて。能代市環境産業部農業振興課課長 竹嶋 高明



能代西高校オリジナルの「カットねぎ」「ねぎドレッシング」などの開発商品を開き、今まで収穫したものを売るだけでなく、加工することで付加価値がつきより消費拡大につながると思う。農業と商工業が手を組めば地域が元気になり、ビジネスチャンスも広がると思います。

地域農業を支えているJAと能代市の方々と意見交換を行った生徒からは、「疑問に思っていたことや、不安な点が解消され、農業はまだまだ成長できる分野だと感じました。またこのような機会があればぜひ参加したいです。」と話してくれました。

